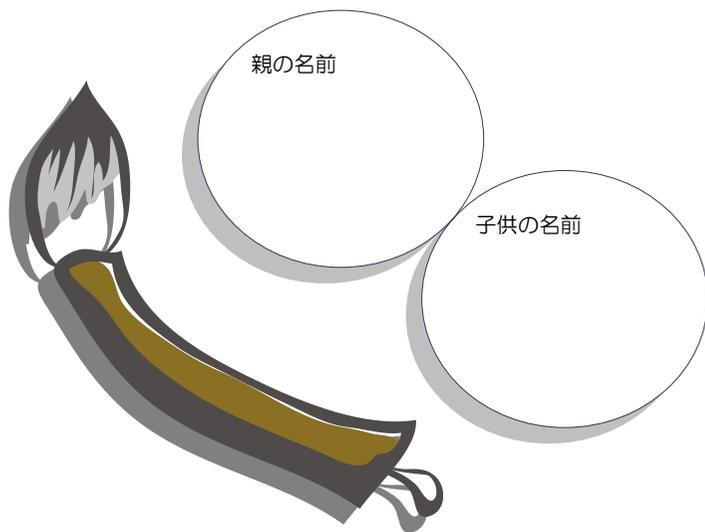


^ゆ ^う ^が ^く
 幽学
^こ ^ど ^も ^し ^こ ^み
 子供仕込
^こ ^こ ^ろ ^え ^こ ^う ^ざ
 心得講座



「子を換えて教う」—幽学の独自の教育仕法である換子教育。7~15歳までの子供を1、2年の間、数軒の家で育てさせました。子供と親、両方の成長と自立を促すことが目的です。

子供仕込心得十九カ条

- ① 一、家中の者が、預かる子を可愛いがり、人目をしのんで涙が出るほどの愛情をもたなければならぬ。
- ② 一、だんだんと月日がたつにつれ、可愛がると、気ままになってくるが、その気ままな様子を面白がれるようになること。
- ③ 一、男 15 歳、女 13 歳までには、何事についても一人前になるように心がけさせること。
- ④ 一、すべて物事を口で教えれば、口で覚えるので、とにかく行いをもって教えること。家中の者や、仲間の話などを聞かせたり、一言二言は口で教えてもよい。
- ⑤ 一、食事については、腹がケチにならないよう心がけること。中途半端なものはいけない。十分に心がけること。また、赤飯や餅など、家内中ばらばらにだすのは



よくない。食事のしたくをするときも、人目をしのんでつまみ食いはせず、必ず人のいるところであること。

⑥ 一、やむをえず数の少ない物は、家中すべて同じに配ること。必ず、親と子供に先に配ること。

⑦ 一、先祖や親を大切に「孝」の気持ちがめばえたときは、家中で楽しく、うかれるほど嬉しい気持ちになるとよい。口でほめてはいけない。とにかく子供の心の先を折らぬようにすること。志をたっぷりと育むこと。

⑧ 一、子供が人の悪口などを話す時は、家中の者は受け答えせずに知らぬふりをしているのがよい。その話を受け入れれば、その子は必ず「あなほり」(悪口をいう人)になる。

⑨ 一、家のなかに金銭を取り散らかしておくことはならない。

⑩ 一、いろいろなつくりものなどを得意にする子供には、その助けをしてあげるとよい。

⑪ 一、自分たちでいつもじゅばんを着つけるようにし、子供がめんどうがったら様子を見て手伝うこと。

幽学は「和」と「孝」の考えを重んじました。これは道徳の考えの基本でもあります。

孝

和

「ひもとき」は、7歳になるとそれまで着ていた子供のつけ紐のついた着物から、大人と同じ帯をしめる着物にかわる時のお祝いです。



⑫ 一、来客などには礼儀よくさせること。

⑬ 一、人に呼ばれたときは、必ず返事をよくさせるようにすること。また、人に何か頼まれたときには、しりを軽くして子供の見本となるようにすること。子供のだらしないのは、自分がだらしないせいである。

⑭ 一、家中で、朝早く起きて、夜は早く休むこと。必ず必ず、毎夜毎夜、翌日の仕事割の相談をして、子供にもこれを見せて聞かせること。

⑮ 一、教えるときにも、極めて念をいれて教えること。何事もいっぺんに教えたがるのはよくない。心がけて、だんだんと教えること。

⑯ 一、紐解きの言い渡しを忘れないように大切に心がけること。ただ、紐解きをおかえてない子供は、5歳からこれを仕込むこと。

⑰ 一、無理に仕込みたがるのは悪く、子供の気の進む時をまつこと。

⑱ 一、御膳につく時の座り方などをよく教えること。

⑲ 一、なにより愛情の深いことが極めて大切である。

これらの条文を日々思い出し、日々の暮らしに努めること。

大原幽学

【付録】

紐解きの心得

- 一 祖父母や父母の喜ぶ顔を見るのを何よりの楽しみにすること
- 一 親、兄弟、仲間の志を大切にすること
- 一 兄弟、友達に限らず、普段のふるまいにも男は男らしく、女は女らしくすること
- 一 みんなの気持ちを考えて、自分勝手は一生の恥と思うべし
- 一 男は15歳、女は13歳になるまでに、何についても一人前になるように志をもつこと

これらを、帯を締めるたびに思い出し、
志をもって帯をするべし

